

「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」

(福)神奈川県社会福祉協議会は、平成28年度より4カ年の活動推進計画に「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」を位置付けました。この事業は、(福)神奈川県社会福祉協議会、(福)神奈川共同募金会、(特非)よこはま地域福祉研究センターの3者協働により、それぞれの持ち味を生かした事業展開を目指しています。

今回「子ども・若者の居場所づくり事例集」は、既に県内で行われている、子ども・若者の育ちや自立を支える多様な「居場所」を取材し、発足の経緯や活動内容を紹介し、居場所の有用性や居場所のあり方を検討するきっかけに、また、今後、身近な地域にさらに増えていくことが期待される居場所に関わる人が現れることを願って発行します。

紹介事例について

「子ども・若者の居場所づくり事例集」で紹介する取り組みは、第1号の本号については11事例。一口に「居場所」といっても多様です。

昨今は、誰でも自由に集う「たまり場」、外遊びを中心に遊びを創造し仲間づくりをする「プレイパーク」、低価格で手づくりの食事を提供する「こども食堂」、個々の子どもに寄り添って勉強する習慣をつけたり学校の勉強を補う「学習支援」、自分を知り、自分に合った仕事に出会えるようコーディネートする「就労支援」など、漠然とした「居場所」の種別はあるものの、実際に取材してみるとそのカテゴリーを越えた活動が目指すミッションや、具体的な取り組みの特性があることが分かります。

しかしながら、本号では読む方に「居場所」の間口をできるだけ広く理解されることが重要であると判断して、上記の取り組みを県内の居場所の活動か

ら選択し、取材させていただきました。

※NPO法人は、文中では(特非)と表記しています。

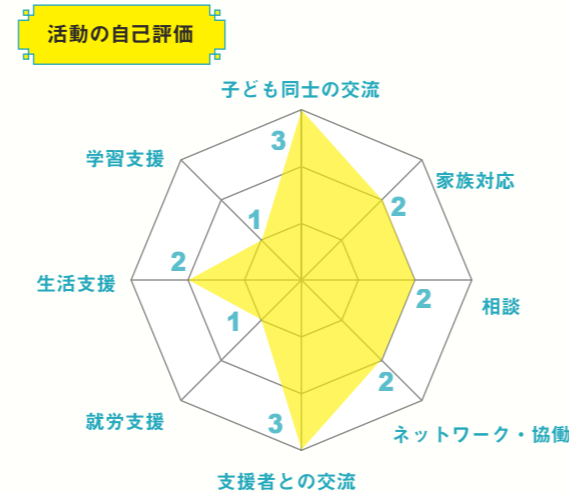
※各事例は2017年6月から10月にかけて取材した時点の内容です。

各事例に標記している指標について

指標①：活動の自己評価

取材をする中で見えてきたのは、各居場所を運営する団体では、子ども・若者、また、その家族に対して行っている主な取り組みの他にも、見えてきた課題に応じて活動の内容を広げている場合が多いことです。そのため、文中で紹介するだけでなく、「居場所の取り組み指標」を考え、8つの項目を立て、それぞれ実施度を0～3までの4段階にして、活動団体に自己評価していただきました。居場所とは、そこにいる人々の間で、「暮らしを共有」する場でもあり、関わりの中で支援の必要性が生まれたり、それを実行するために外部とのネットワークが広がっていることが分かります。

指標やその項目については、本事例集を編集する



段階で考えたものです。より明確に居場所の実態を表す指標が考えられる場合、必要に応じて変更したいと思います。

指標②：活動のプロセス

今日の社会で、子ども・若者の育ちや自立を阻む課題がさまざまある中で、居場所を開設した個人や組織は、一様に、その多様な課題に現状把握という形で向き合い、地域における対策の実際などの情報を収集し、具体的な活動を生みだし、実行する中で、独自性のある活動をさらに生みだし、成果を出そうとしています。そして、最終的には、地域社会の課題を改善させたり軽減させることまでをも行っています。

本指標については、取材者がヒアリングをし、行われていることを表に書き出す方法を取りました。現状認識やプロセス上の効果把握等、団体の視点や活動展開の違いに注目してほしいと思います。

リーダーにフォーカスしたインタビューによる記事

本事例集は、いずれの事例もリーダーに取材申し込みをして聞き取りを行った上での記事です。

「居場所」を運営する団体のリーダーが、どのように今日社会や地域を、また、子どもや若者を見ているのか。また、どのような取り組みを選択し、どのようなチームを形成して取り組みを行っているのか、できるだけ具体的に表すことを試みました。

種別について

取材をしていく中で、複数の要素をもった「居場所」があることが分かりました。明確に分類することは難しいのですが、各活動を分かりやすく伝えるため、下記の7つに分類しアイコンとして表示しています。

